

## 2022年3月5日かぎぐるまデモ Yujin Jung (Korea Verband)の演説

2011年3月11日に起きた福島第一原発事故から11年が経ちました。

でも危機はまだ鎮圧されてなどいません。事故後の影響もまだ克服されていません。しかしそれよりもっと深刻な問題は、日本政府が百万トンもの放射性汚染水を海に放出すると予告したことです。これによりフクシマの原発事故とこれに起因する危機が日本のみならず近隣国でも収束していないことがわかります。

日本政府は多核種除去設備(Advanced Liquid Processing System、略して ALPS)という最新設備を装備し、汚染水から放射性物質を取り除いています。それでも処理後の水からもまだ放射性物質が検出されているし、もともと ALPS はトリチウムを取り除くことができません。このような汚染水を海洋放出するという日本政府の計画はつまり、トリチウムという毒の入った水を放出して海洋を汚染するということであり、水産資源にも悪影響を与え、ひいては近隣諸国でも人々の健康を損ねる問題を引き起こす可能性があることを意味します。

今私たちは、チェルノブイリ原発がロシア軍に占拠されるという問題を目の当たりにしています。ロシア軍が激しく砲撃することで、そばには近寄れないチェルノブイリ原発から、放射線量が上昇する可能性が出てきました。チェルノブイリの事故から36年経った今でも、私たちは放射能の心配をしなければならないのです。

日本は平和に暮らしたいと願う市民たちの声にしっかり耳を傾けるべきです。放射能汚染水を海洋に放出するという事は、自分たちの生命を破壊するのと同じことです。フクシマ原発事故や広島、長崎ですでにみたように、放射線による汚染はただ今現在の生命に影響を及ぼすだけではなく、その将来の何代もの世代をも巻き込んで悪影響を与えるのです。

さらに、フランスや東ヨーロッパの国々は、気候危機が悪化したことに対する措置として、新しく原発を建設すると予告しました。二酸化炭素を排出しない発電のための代替がないというのなら、極めて厳格な安全規定をもって原発を持つことを決定するということもあり得るかもしれませんが、今では私たちはすでに、商業化され経済的にも手ごろな再生エネルギーのテクノロジーを持っています。原子力発電所は、もし恐ろしい事故が起こらないとしても、バッドチョイスです。10 万年以上人間から隔離して保管しなければならないような核のゴミを、誰が面倒みるのでしょうか？

フクシマ原発事故から私たちが学んだ教訓は明らかです。核にまつわるテクノロジーは、避けるべき悪です。哲学者のジョージ・サンタヤーナがすでに言っています：「過去を回想しない者は、それを繰り返す運命にある」と。

Korea Verband: <https://www.koreaverband.de>